様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０１９３５

研究課題名（和文）英語到達度指標CEFR-J準拠のCAN-DO指導タスクおよびテスト開発と公開

研究課題名（英文）Research into CEFR-J-based 'can do' task and test development

研究代表者
根岸　雅史（Negishi, Masashi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：５０１８９３６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　29,200,000円

研究成果の概要（和文）：CEFR-J はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に基づき，日本の英語教育のために構築された汎用枠である。本科研の主な成果はレベル・技能別CAN-DOテストの開発である。
聞く・読む・話す（やりとり）・話す（発表）・書くの５技能別に Pre-A1 から B2までのテスト・タスクを開発し，中学・高校・大学レベルで試験的にテスト・データを採取した。その結果を古典的テスト理論および項目応答理論で妥当性・信頼性の検証を行い、改善の余地のあるテストは修正を施し，それらの検証結果データを公開シンポジウム等で公表した上で、ほぼすべてのテスト・タスクを CEFR-J 公式サイトで教育研究商用に無償公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本の英語教育を客観的に評価・改善するための枠組と資料体を提供することが CEFR-J の最大の目的である。今回のCEFR-Jレベル別CAN-DOテスト開発はこの CEFR-J の成果を具体的に語学教育のさまざまな文脈に位置づけるための教授方法やシラバスと共に評価のためのツール群を提供するという意味で、重要な意義がある。新学習指導要領の思考力・判断力・表現力とも通ずる「ことばを使って何ができるか」をテストする新しい観点を取り入れた全テスト・サンプルを公開することで、日本の英語テスト開発において国際標準であるCEFRに準拠した組織的な改善を行っていくことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：The CEFR-J was a CEFR-based statistically validated framework for English language teaching in Japan. The purpose of the present study was to construct a battery of language tests to assess learners' performance specified in "Can do" descriptors in the CEFR-J.
For each of the five modes of communication, "Can do"-based performance tests were developed for Pre-A1 to B2.2 levels, with the help of CEFR-J lexical and grammatical profile information. In the final year, most performance test samples with validation reports were made publicly available at the CEFR-J official website, which will contribute to the promotion of "Can do"-based performance tests at school and the use of the CEFR as a reference tool.

研究分野：英語教育

キーワード：外国語教育　教育評価・測定

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本人の英語力は国際的な英語力調査（Education First や TOEFL 国際比較など）でも低迷していることは周知の事実である。学習指導要領の改善のために行われた英語力調査でも日本人の高校卒業時の英語力は受容技能（読むこと・聞くこと）が A2 レベル、産出技能（話すこと・書くこと）は A1 レベルであり、特に産出技能に課題があることが知られている。そのような中で、日本の英語教育の全般的な達成状況や課題の明確化に、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）が客観的な汎用枠として存在価値を増してきていた。我々の CEFR-J プロジェクトは、CEFR 準拠でより細分化された能力記述文（以下 can do）のリストを自作し、5000 人規模の can do アンケートの結果を項目応答理論で難易度順に配列したものである（投野, 2013）。CEFR-J プロジェクトは、現在までに基盤研究(A)を通算 4 期連続で採択されてきており、50 名以上の外国語教育・第二言語習得・自然言語処理・言語テストなどの分野の専門家が参加して、共通枠とそれに関連する言語教育資源（語彙プロファイル、文法プロファイル、フレーズリスト、テキスト難易度レベル判定ツール）を構築し、公式サイト（https://www.cefr-j.org）で教育研究のみならず商用にも一般利用できる枠組として公開してきた。

２．研究の目的

(1) CEFR-J can do テスト構築
本研究では、CEFR-J の利用環境を整備する目的の一環で、CEFR-J の 100 余りの can do リストに準拠したパフォーマンス・テストの設計・制作および検証を行うことを目的とした。通常の言語テストとは異なり、個々の can do が表す「ことばを使ってできること」を実際にその能力を示すことのできるパフォーマンス・タスクで評価することとし、can do ごとにテストを作成した。こうすることにより、can do を個別にシラバス・単元の中に位置づけてテストを利用したり、複数の can do を組み合わせて CEFR-J レベル判定の評価ツールとして用いたりなど、柔軟な運用ができるような一式のテスト・データベースをイメージして構築を行った。

(2) can do テストをゴールとした指導のイメージ
パフォーマンス・テストと同時に指導タスクの具体例も同時に示すことを試みた。測定できる英語力のイメージが明確になれば、そこから逆算してどのような教室内言語活動をデザインできるかを示そうと試みた。

(3) can do ベースの評価システム構築のための基礎資料整備
テスト用の指導タスクの作成プロセスとその過程における既存の言語教育資源（語彙・文法プロファイル、テキスト難易度判定ツール）の利用方法などテスト作成プロセスを一般化すること心がけると共に、プロトタイプのテストの検証方法などを具体的に検討して、それらの結果を can do ベース評価の基礎研究の知見として集約することを試みた。

３．研究の方法

(1) 全体方針の確認とテスト作成方法の議論
全体会議を通して、can do テストの構築方法全般に関する議論を行い、テスト作成と指導タスク作成の順序や技能別のテスト作成技法の相違点などを洗い出し、必要な CEFR-J レベル別語彙・文法・テキスト情報を特定した。

(2) 研究グループの設定
指導タスクと評価タスクのあり方に関する検討を経て、指導タスクは評価タスクの達成に至るためのものと位置づけ、CEFR-J の各 can do ディスクリプタに基づく評価タスクの開発およびその困難度の検証を優先することを決定した。それにより受容技能（聞く・読む）、産出技能（話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くこと）別のテスト作成班を設け、かつ必要な言語情報を提供する言語処理班を作った。

(3) 各 can do ディスクリプタに基づくテストの試作
2017 年度に、Pre-A1 から A2.2 までのテスト項目を、2018 年度に B1.1 から B2.2 の作成をそれぞれ試みた。

(4) 各テストの試行調査による修正と公開版の作成
各テストは試作版を実際の研究協力校を募って実証データをとり、その can do テストごとの難易度統計分析を行った。すべてではないができるだけその結果を受けた修正を施し、公開版を作成した。

４．研究成果

(1)　CEFR-J can do　テスト構築と公開

2020 年 3 月時点で、聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）に関しては、Pre-A1～B2.2 まで、話すこと（発表）は Pre-A1～B1.1、書くことは Pre-A1～B1.2 までのテストを CEFR-J 公式サイト（https://www.cefr-j.org）で公開した。すべてのテスト・サンプルは PDF でダウンロード可能で、教育研究商用に利用できることとした（図１）。また話すこと（やりとり）に関しては、詳細な評価ルーブリックも公開した（図２）。

CEFR-J CAN-DO テスト

本テスト・サンプルは科学研究費基盤研究（A）「英語到達度指標 CEFR-J 準拠の CAN-DO 指導タスクおよびテスト開発と公開」(2016-2019 年度、課題番号:16H01935、研究代表者:根岸雅史)の研究成果である。

免責事項:

○ 本テスト・サンプルは、CEFR-J 準拠の CAN-DO テストとして、教育・研究用に無償公開する。本テストはサンプルであるが、目的に応じてそのままでまたは適宜改変しての利用を許可する。

○ 本テスト・サンプル利用の際は教育・研究・商用を問わず、必ず下記の引用を行うこと:

「CEFR-J CAN-DO テスト:サンプル版」(Version 1.0) ダウンロード URL および年月日

○ 本テスト・サンプルの使用における損害・不利益・批判などに対して、CEFR-J科研チームおよびCEFR-J 資料一式を管理している東京外国語大学投野研究室は一切の責任を負わない。

技能: 聞くこと (PreA1-B2.2)・読むこと (PreA1-B2.2)・やりとり (PreA1-B2.2)・発表 (PreA1-B1.1)・書くこと (PreA1-B1.2)

	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1
聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞きとることができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。
	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]
	英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。	日常生活に必要な重要な情報（数字、品物の値段、日付、曜日など）を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞きとることができる。	日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。	（買い物や外食などで）簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。
	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]
	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されていれば、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。
	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]
	視覚補助のある作業（料理、工作など）の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。	はっきりとなじみのある発音で話されれば、身近なトピックの短いラジオニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。	トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。	自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、現代社会や専門分野のトピックについて、話者の意図を理解することができる。
	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]	[PDF]
	一括ダウンロード [PDF] ※ 音源は後日公開します				

図１：CEFR-J 公式サイトにおける can do テスト公開

Level	Can-Do descriptor	評点 3 タスクが難なく十分に達成できた	評点 2 タスクが達成できた	評点 1 タスクが達成できなかった	タスク共通のレベルイメージ（評点 2の場合）
PreA1.1 (help)	基本的な語句を使って、「助けて！」や「～が欲しい」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。	「言いたいこと」を4つ全部言え、そのうち文が混じっており、たどたどしく言える（通じる程度のエラーは許容）。	単語レベルで、「言いたいこと」のうち3つ以上言える（例：Help. Hungry. Food. で評価 2）。	「言いたいこと」4つのうち2つ以下しか言えない。	単語レベル。もしくは決まり文句（formulaic expressions）として丸暗記しているものなら言える。
PreA1.2 (hello)	一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そうした挨拶に応答したりすることができる。	定型の挨拶以上のことを言う、または聞くことが可でもある（I'm going to school. What are you doing here?など）。その発話はスムズである必要はないが、長い沈黙はない。	単語レベルで、定型の挨拶が2つ以上言える（Hello. How are you? I'm fine.など）。試験官（留学生）の言った挨拶のリピートでも、1つとやりとりする（Good morning. Good morning. など）	定型の挨拶が1つ以下しか言えない。	
A1.1.1 (Usaman)	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	質問は、文の形ですることができる（通じる程度のエラーは許容）。カードに書いてある以上の情報を、質問の答えとして言える。ためらいなく自然に文を言える。	試験官（留学生）の質問には、カードに書いてある通りに答える。質問は、What time? Where? など、疑問詞付で聞く。単語レベルで、6つの情報のうち5つ以上聞いたり話したりできる。	単語レベルで、6つの情報のうち3つ以下しか言えない。時間と場所で尋ねられるものがある。	決まり文句ではない文は作れないレベル。
A1.1.2 (hobby)	家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、必ずしも正確ではないがなじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。	What's your hobby? My hobby is … といった試験官が言った文のリサイクルではない文や、決まり文句ではないが自然に作れ、試験官（留学生）の質問に答えることができる（通じる程度のエラーは許容）。	試験官（留学生）の質問に、単語、フレーズレベルで最低限の情報ではあるが、自然なタイミングで回答し、会話することができる。6つの質問のうち4つ以上に答えられる。	6つの質問に3つ以下しか答えることができない。もしくは、試験官（留学生）が1分半の間に6つの質問ができないほど、受験者の流暢さが低い。	
A1.2.1 (sports, hobby)	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり（何ができるかできないかや色についてのやりとりなど）において単純に応答することができる。	受け答えの速さ、タイミングが自然であることに加え、基本的に常にS+V+Oの文で答え、聞かれている以上の情報を自主的に話すことができ、いつも受け身の会話ではない。	Yes. I can/No. I can't などの簡単な答えは、ためらうことなく自然なタイミングで言うことができる。それに加え、一度でも決まり文句ではないS+V+Oの形でその後でやることができる（通じる程度のエラーは許容）。4つの質問のうち3つ以上に答えられる（What's your name?の答えは敬称に入れない）。	Yes. I can/No. I can't といった決まり文句でも、返答するのに不自然な間があったり、ためらいがある。決まり文句を除き、文は1つも作ることができない。S+V+Oの形でも、理解を妨げる大きな間違いがあったり、長い沈黙があったりする。4つの質問のうち以下しか答えることができない。もしくは、試験官（留学生）が1分半の間に4つの質問ができないほど、受験者の流暢さが低い。	100%受け身で会話は通じ、決まり文句ではない文を、最低一度は自ら作る。
A1.2.2 (food)	スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのとてもなじみのあるトピックに関して、ほっきり話されれば、限られたレパートリーを使って、簡単な意見交換をすることができる。	受け答えの速さ、タイミングが自然であることに加え、基本的に常にS+V+Oの文で答え、聞かれている以上の情報を自主的に話すことができ、いつも受け身の会話ではない。	Yes. I do/No. I don't などの簡単な答えや、I (don't) like [食べ物の種類] などの決まり文句は、ためらうことなく自然なタイミングで言うことができ、90秒の間に準備する料理が3品以上決めることができる可能性がある。	Yes. I do/No. I don't などの簡単な答えや、I (don't) like [食べ物の種類] などの決まり文句も、返答するのに不自然な間があったり、ためらいがある。決まり文句を除き、文は1つも作ることができない。S+V+Oの形でも、理解を妨げる大きな間違いがあったり、長い沈黙がある。90秒の間に準備する料理が3品以下しか決めることができない。	
A1.3.1 (club)	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、ほっきり話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	自分のクラブ活動について、聞かれた以上の情報を自ら与えることができる。その上で、試験官（留学生）はどのようなクラブ活動か良いか、情報を詳細に聞き出すことができる。	返答は基本的には短いが、決まり文句以外の文が混ざり（通じる程度のエラーは許容）、受け答えのタイミングに不自然さはない。自分の部活についてのキ分な情報はある。S+V+Oがある形で質問もして、試験官（留学生）がどういったことができるのか、何が好きなのかを聞き出すことができる。生徒は質問を1つ行うことができる。	文が言えたとしても、決まり文句だったり、発話に時間がかかったりする。情報量が不十分で、部活を決める参考にはあまりならない。生徒は質問を1つも行うことができない。質問したとしても、今までの会話に基づいた質問ではなく、決まり文句的な質問。もしくは質問をするのに非常に時間がかかる。	文とフレーズが五分五分のイメージ（通じる程度のエラーは許容）。A1.3は質問することができるが、会話の主導権は、試験官にある。
A1.3.2 (movie)	基本的な語や言い回しを使って、人を映画などに誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	受け答えが非常にスムーズで、話用論的に適切な断り方ができる。また試験官（留学生）が代案を言うのを待たずに、自分から提案し、付加的な情報（例：駅に大きな映画がある）を自主的に提供することができる。	試験官（留学生）の問いかけには自然なタイミングと速さで答える。断る時には「No Saturday」のような単語の羅列ではなく、文に近い形（I study Saturday. Action movies. I don (like) ）で言える。会話の主導権は試験官にあり、90秒で、4つ以上の必要事項を決めることができる程度の流暢さがある。	文が言えたとしても、決まり文句だったり、発話に時間がかかったりする。全体を通して単語、フレーズで答え、文が作れない。もしくは、流暢性が悪く、90秒で4つの必要事項を決めることができない。	
A2.1.1 (map)	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどの つなぎ言葉が「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	2分以内に、3か所の道案内が、スムーズに動詞のある形で できる。もしくは、3か所のスムーズな道案内に加え、付加的な情報（例：ケーキ屋と寿司屋のお店情報）を自主的に提供することができる。	3か所のうち、2か所以上の道案内が、動詞のある形で説明できる。その説明は地図がないと理解できない程度のシンプルなものであり、自然な流暢さで、言い直しも無しにならない。（なお、若干の言い間違いや省略は減点しない（left,right の言い損ねなど）。	3か所のうち、2か所以上の道案内が言葉では説明できず、地図上で場所を指す、または説明に動詞がない（Here. Left. など）。	エラーはあっても、基本的に文で話す。楽に言える文は単文。複文を作ろうとすると、流暢さが落ちる。ポスターや絵の実物がないと、タスクの達成は難しい。
A2.1.2 (poster)	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	ポスターの描写とポスターに関する自分の意見には適付けなど付加的な情報がある。試験官（先生）のネガティブなコメントには話用論的に適切な方法で、代案を出す、アドバイスを求める等、余裕をもって対応できる。	ポスターの簡単な説明と自分の意見を、単文、もしくは単文をつなげたもの（重文）で、自然な流暢さで伝えることができる。試験官（先生）のネガティブなコメントに、簡単な文で何らかの対応ができる。最低でも、「ポスターの描写」か「試験官との意見交換」はできる。「どこに言い直しについては、明確に触れなくてもいいが、試験官が質問をして引き出せばできる。	流暢さが悪く、ポスターの説明や自分の意見に関する情報量がポキ分。準備した以外のことを言うのに、苦労している。文になっていない、もしくは理解を妨げる重大なエラーがある。	
A2.2.1 (Kyoto)	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。	文章をつなげたり、複文を使ったりして、自分のまとまった詳細な意見を言い、試験官（教員）の反対意見に対しても、話用論的に適切な方法で、自分の立場を主張できる。また、詳細かつ流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	①行先と②その場所の良さを、主語・動詞のある単文3文程度で簡単に言い、試験官（教員）の軽い反対意見に注意しないで、簡単な文で何か反応できる。	①行先と②その場所の良さを言っているが、伝わらないことがある。流暢さが悪い、情報量が少ない、単語・フレーズレベルで話すなどタスクを達成するのを妨げる特徴が最低1つは見られる。意見が非常に単純で、試験官（教員）の軽い反対意見にもどう対応していいかわからず黙ってしまうことがある。	エラーはあっても、頻繁ではない。基本的に文で話す。楽に言える文は単文。複文を作ろうとすると、流暢さが落ちる。
A2.2.2 (souvenir)	予測できる日常的な状況（郵便局・駅・店など）ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	欲しいお土産や状況の説明が詳細だったり、必要以上のこと（値切る、非常に具体的に欲しいものを指すなど）を自然に自分から言えていたりする。また、詳細かつ流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	どんなものが欲しいかを主語・動詞のある単文3文程度で簡単に描写し、試験官（店員）とやり取りして欲しいものを2分以内に購入できる。	質問に対して最低限の情報量で答え、自分からどんなものが欲しいかなどを具体的に描写できない。欲しいお土産や状況を説明しているが、伝わらないことがある。流暢さが悪い、情報量が少ない、単語・フレーズレベルで話すなどタスクを達成するのを妨げる特徴が最低1つは見られる。	

図２：話すこと（やりとり）のルーブリック公開

(2)　３回の公開シンポジウムの実施

研究の中間報告も含め合計３回のシンポジウムを実施した。

(a) 中間シンポジウム（2018 年 3 月 17～18 日、成城大学）
2018 年 3 月 17・18 日に中間シンポジウムを開催し、約 350 名の参加者があった。このシンポジウムでは、2 年間の研究成果の発表をするとともに、CEFR-J のリソースの活用ワークショップも行った。さらに、CEFR-J の利用企業（7 件）や CEFR-J を利用する一般公募発表（11 件）の発表機会を提供した。

(b) CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都（2019 年 3 月 23 日、同志社大学）
2019 年 3 月 23 日に「CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都」を開催し、170 名余りの参加者があった。このシンポジウムでは、3 年間の研究成果の発表をするとともに、CEFR-J のリソースの活用ワークショップも行った。さらに、CEFR-J の利用企業（6 件）の発表機会を提供した。

(c) CEFR-J 2020 webinar（2020 年 11 月 28 日、Zoom webinar 形式）
2019 年度最終報告シンポジウムが新型コロナの影響で開催できなかったため、20 年度に繰越金を用いて webinar を開催し、346 名の参加者（登録 424 名）があった。一般・企業の発表（6 件）、英語による各技能別テスト構築の最終研究成果報告（5 件）、Barry O'Sullivan 氏（British Council）による講演を実施。テスト・タスクを公式サイトにアップしたことを報告したところ、多くの参加者から役に立つと謝意が寄せられた。

(3)　テスト作成支援のための言語処理ツールの公開

言語処理班では、リーディングやリスニングのテキスト分析の結果に基づき、テキスト・レベル判定プログラムの開発を行い公開した（CVLA、図３　https://cvla.langedu.jp/）。さらに、CEFR-J に基づく文法のレベル別基準特性を解明、文法のレベル別基準特性判定を可能にする CEFR-J Grammar Profile を開発・公開し、その文法判定をもとにした CEFR レベル判定ツールを公開した（English Level Checker, http://lr-www.pi.titech.ac.jp/gradesystem/）。音声認識では、英語学習者のスピーキング・テスト解答データから音声認識プログラムを開発し、その精度を上げる試みを行った。

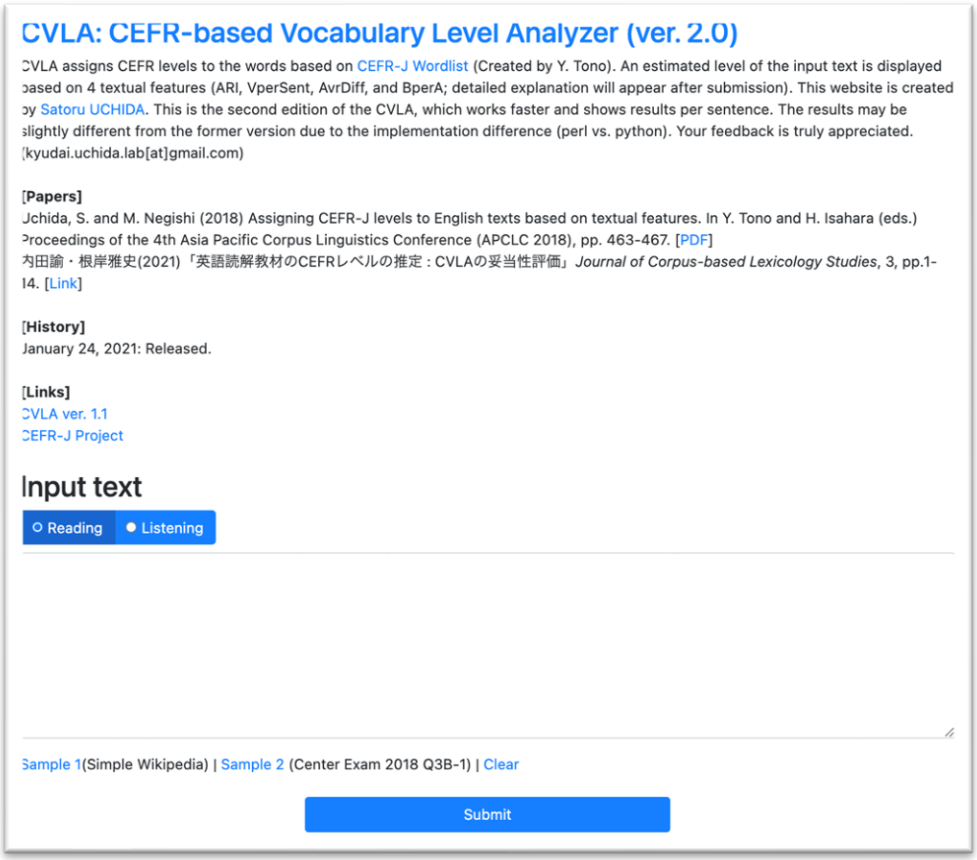

図３：CVLA（現在は Version2.0）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計66件（うち査読付論文　29件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　17件）

１．著者名 Uchida, S. and M. Negishi	４．巻 -
２．論文標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018)	６．最初と最後の頁 463-467
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ishii, Y. & Tono, Y.	４．巻 -
２．論文標題 Investigating Japanese EFL learners' overuse/underuse of English grammar categories and their relevance to CEFR levels	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference, (Edited by Y. Tono and H. Isahara).	６．最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yukio Tono	４．巻 -
２．論文標題 Developing multilingual language learning resources using the CEFR-J	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference, (Edited by Y. Tono and H. Isahara).	６．最初と最後の頁 445-452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 投野由紀夫	４．巻 124
２．論文標題 CAN-DO活用と英語語彙指導を融合した発信技能育成の試み	５．発行年 2018年
３．雑誌名 福井県教育総合研究所『研究紀要』	６．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 投野由紀夫	４．巻 -
２．論文標題 CAN-DOを日本の英語教育にどう活かすか	５．発行年 2018年
３．雑誌名 平成28年度私立学校特別研修会『外国語（英語）教育改革特別部会講演・実践事例集』	６．最初と最後の頁 69-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲	４．巻 37
２．論文標題 外国語として英語を学ぶ初学者によるアルファベットの手書き文字	５．発行年 2018年
３．雑誌名 JASTEC Journal	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内野駿介・酒井英樹・菊原健吾	４．巻 22
２．論文標題 教職に関する科目（各教科の指導法に関する科目）の「英語科指導法基礎」における外国語（英語）コア・カリキュラムの点からの学び	５．発行年 2018年
３．雑誌名 JABAET Journal	６．最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 酒井英樹・佐藤大樹・木下愛里・菊原健吾	４．巻 30
２．論文標題 中学校英語科における技能統合型の言語活動の指導―読んだことに基づいて話すこと［やり取り］―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ARELE	６．最初と最後の頁 303-318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 石井康毅	４．巻 2018年6月号
２．論文標題 CEFR-J Grammar Profileとは何か	５．発行年 2018年
３．雑誌名 英語教育（大修館書店）	６．最初と最後の頁 35－36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Saito Kazuya、Dewaele Jean-Marc、Abe Mariko、In'nami Yo	４．巻 68
２．論文標題 Motivation, Emotion, Learning Experience, and Second Language Comprehensibility Development in Classroom Settings: A Cross-Sectional and Longitudinal Study	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Language Learning	６．最初と最後の頁 709～743
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/lang.12297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Kuramoto Naoki、Koizumi Rie	４．巻 25
２．論文標題 Current issues in large-scale educational assessment in Japan: focus on national assessment of academic ability and university entrance examinations	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Assessment in Education: Principles, Policy & Practice	６．最初と最後の頁 415～433
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/0969594X.2016.1225667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中谷安男	４．巻 85巻　4号
２．論文標題 グローバル・ビジネスにおけるライディング・ストラテジー使用の検証	５．発行年 2018年
３．雑誌名 経済志林	６．最初と最後の頁 699 - 725
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 86巻　2号
2．論文標題 社会科学，人文科学，自然科学分野の国際ジャーナルにおける考察の章の分析 ： 緩衝表現ヘッジの検証	5．発行年 2018年
3．雑誌名 経済志林	6．最初と最後の頁 87-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 77号
2．論文標題 ゲリラ・マーケティングの再考 ― ラオス・コカ・コーラの事例研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会年報	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 -
2．論文標題 "CEFR の到達目標に準じた 4 技能試験に対応する ライティング指導法"	5．発行年 2019年
3．雑誌名 言語エキスポ2019予稿集	6．最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 工藤洋路・松岡まどか・和田朋子・長沼君主	4．巻 15
2．論文標題 資格・検定試験で求められるライティング力を授業でどう育むか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ELEC同友会英語教育学会研究紀要	6．最初と最後の頁 21-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村越亮治	４．巻 67(12)
２．論文標題 <高等学校>教科書語彙・文法の選別：「理解」と「発信」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 英語教育	６．最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 根岸雅史	４．巻 No.16
２．論文標題 大学入試改革は日本の英語教育を変えるか	５．発行年 2017年
３．雑誌名 語研ジャーナル	６．最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 根岸雅史	４．巻 -
２．論文標題 EUにおけるCEFR改訂の最新動向について	５．発行年 2017年
３．雑誌名 平成27-29年度科学研究費助成事業　基盤研究（B）　研究プロジェクト　「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」成果報告書（2015-2017）	６．最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yukio Tono	４．巻 4
２．論文標題 The CEFR-J and its Impact on English Language Teaching in Japan	５．発行年 2017年
３．雑誌名 JACET International Convention Selected Papers	６．最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平野絹枝・堀田誠・酒井英樹	4．巻 36
2．論文標題 小学生の語彙学習方略使用の認識・学年・英語力の関係	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要	6．最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井英樹・日吉信秀・栗栖博愛・滝沢雄一・木下愛里	4．巻 21
2．論文標題 中学生を対象にした英語学習動機の変容とその理由―小学5年生から中学2年生の時期の回顧的調査―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 JABAET Journal	6．最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井英樹・内野駿介	4．巻 18
2．論文標題 小学校教員養成において必要とされる知識・能力に関する大学生の自己評価―小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムの点から―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 JES Journal	6．最初と最後の頁 100-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊東哲・菊原健吾・酒井英樹	4．巻 12
2．論文標題 ライティング・パフォーマンス評価の検討―含意尺度法，自己評価との相関分析，ラッシュ分析を用いて―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 信州大学教育学部研究論集	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 髙木亜希子・田中武夫・河合創・酒井英樹・清水公男・滝沢雄一・永倉由里・藤田卓郎・宮崎直哉・山岸律子・吉田悠一	4．巻 23
2．論文標題 実践研究を論文化する過程で英語教師が直面する課題とその対応―フォーカス・グループ・インタビューからの考察―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 山梨大学教育実践学研究	6．最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内野駿介・酒井英樹	4．巻 12
2．論文標題 中・高等学校教員養成課程における学生のニーズ分析―中・高等学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムの点から―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 信州大学教育学部研究論集	6．最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tomoko Takada	4．巻 6
2．論文標題 The perception of the CEFR in secondary-level English language teaching in Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 English profile studies	6．最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasuo NAKATANI	4．巻 6
2．論文標題 The Applicability of Emotional Intelligence through CEFR towards Enhancing Cooperative Teaching and Self-learning in Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 WWA Journal	6．最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 76
2．論文標題 ビジネスパーソンの英語プレゼンテーションにおけるコミュニケーション・ストラテジーの検証	5．発行年 2017年
3．雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会年報	6．最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasuo NAKATANI	4．巻 3巻
2．論文標題 Exploring Writing Strategies for Guiding Readers: The Use of Metadiscourse in CEFR-Based Textbooks	5．発行年 2017年
3．雑誌名 International Journal of Management and Applied Science14-17	6．最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 85
2．論文標題 学術論文における結果報告の検証 ： 社会科学，人文科学，自然科学分野の国際ジャーナルの分析	5．発行年 2017年
3．雑誌名 経済志林	6．最初と最後の頁 77-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石井康毅	4．巻 394
2．論文標題 日本人英語学習者の句動詞の学習・使用状況の分析―検定教科書の技能・領域別データと学習者コーパスの比較に基づく分析―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石井康毅	4．巻 3
2．論文標題 話し言葉コーパスと検定教科書に基づく日本人英語学習者の句動詞使用実態の分析	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Learner Corpus Studies in Asia and the World	6．最初と最後の頁 101-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤 拓，篠崎 隆宏	4．巻 Vol.2017-SLP-119
2．論文標題 英語学習者の発声自動評価を目的としたDNN音声認識システムの検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 情報処理学会研究報告	6．最初と最後の頁 1--4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 篠崎 隆宏、加藤 拓	4．巻 -
2．論文標題 日本人英語学習者を対象とした自動英語音声認識の予備検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 CEFR-J 2018 Symposium	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sawaki Yasuyo、Koizumi Rie	4．巻 14
2．論文標題 Providing Test Performance Feedback That Bridges Assessment and Instruction: The Case of Two Standardized English Language Tests in Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Language Assessment Quarterly	6．最初と最後の頁 234～256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15434303.2017.1348504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵・アルク教育総合研究所	4．巻 10
2．論文標題 Telephone Standard Speaking Test (TSST) の妥当性検証	5．発行年 2017年
3．雑誌名 アルク英語教育実態レポート	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵	4．巻 59
2．論文標題 Genius English Communication I Revisedのタスクを使ったスピーキングの評価	5．発行年 2017年
3．雑誌名 GCD英語通信	6．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 日本言語テスト学会 提言作成委員会（渡部良典，小泉利恵，小山由紀江，齋藤英敏，澤木泰代，清水裕子，片桐一彦，深澤真，横内裕一郎）	4．巻 66(2)
2．論文標題 日本言語テスト学会（JLTA）「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における英語テストの扱いに対する提言」と解説	5．発行年 2017年
3．雑誌名 英語教育	6．最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小泉利恵	4．巻 3
2．論文標題 ダイアローグ型タスクによるスピーキング能力評価研究の動向―学習者対話型テストを中心に―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Learner Corpus Studies in Asia and the World	6．最初と最後の頁 27－42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Pan, Y.-C., & In’nami, Y.	4．巻 7
2．論文標題 Does TOEIC as a university exit test ensure higher employability in Taiwan?	5．発行年 2017年
3．雑誌名 International Journal of Language Testing	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 In’nami Yo、Koizumi Rie、Sawaki Yasuyo、Watanabe Yoshinori	4．巻 14
2．論文標題 Issues of Language Assessment in Japan: Past, Present and Future	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Language Assessment Quarterly	6．最初と最後の頁 189～191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15434303.2017.1357725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 In’nami Yo、Koizumi Rie	4．巻 14
2．論文標題 Using EIKEN, TOEFL, and TOEIC to Award EFL Course Credits in Japanese Universities	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Language Assessment Quarterly	6．最初と最後の頁 274～293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15434303.2016.1262375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 工藤洋路・鈴木彩子・日臺滋之・松本博文	4．巻 60
2．論文標題 英語教職課程の学生が修得すべきコンピテンシーの研究とCan-doリスト作成の試み―3年次報告―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 玉川大学文学部紀要　論叢	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 工藤洋路・木幡隆宏・和田朋子・松岡まどか・長沼君主・齋藤澄江	4．巻 14
2．論文標題 「対話的な学び」を引き起こすためのCollaborative Writingの在り方および具体的な指導例	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ELEC同友会英語教育学会研究紀要	6．最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村越 亮治，江原 美明	4．巻 7
2．論文標題 アクション・リサーチをガイドする	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神奈川県立国際言語文化アカデミア紀要	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20686/academiakiyou.7.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yukio Tono	4．巻 －
2．論文標題 What is missing in learner corpus design?	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Spanish Learner Corpus Research	6．最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/scl.78.02ton	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 75
2．論文標題 ビジネスパーソンの英語プレゼンテーション・コーパス分析：CEFR上位者の目標設定に向けて	5．発行年 2016年
3．雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報	6．最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakatani Yasuo	4．巻 46
2．論文標題 Exploring the Implementation of the CEFR in Asian Contexts: Focus on Communication Strategies	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Procedia - Social and Behavioral Sciences	6．最初と最後の頁 771～775
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.sbspro.2012.05.196	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 64
2．論文標題 パルフォン・クリスチャン・ディオール・ジャポンのマーケティング・コミュニケーション戦略　－シャネル社おの比較	5．発行年 2017年
3．雑誌名 商学論究	6．最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 84
2．論文標題 学術論文における効果的なイントロダクションの考察；社会科学、人文科学、自然科学分野の国際ジャーナルの検証	5．発行年 2016年
3．雑誌名 経済志林	6．最初と最後の頁 19-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中谷安男	4．巻 84
2．論文標題 学術論文におけるメソッド章の語彙使用の検証；社会科学、人文科学、自然科学分野の国際ジャーナルの分析	5．発行年 2016年
3．雑誌名 経済志林	6．最初と最後の頁 113-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊地恵太・酒井英樹	4．巻 38
2．論文標題 英語学習動機の変化に影響を及ぼす要因―動機高揚経験及び減衰経験の内容分析―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 JALT Journal	6．最初と最後の頁 119-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tode, T., & Sakai, H.	4．巻 167
2．論文標題 Exemplar-based instructed second language development and classroom experience	5．発行年 2016年
3．雑誌名 International Journal of Applied Linguistics	6．最初と最後の頁 210-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/itl.167.2.07tod	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 髙木亜希子・酒井英樹・永倉由里・田中武夫・河合創・清水公男・滝沢雄一・藤田卓郎・宮崎直哉・山岸律子・吉田悠一	4．巻 22
2．論文標題 英語教育における実践研究に関する意識調査	5．発行年 2017年
3．雑誌名 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター 研究紀要　教育実践学研究	6．最初と最後の頁 43-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中真由美・酒井英樹	4．巻 10
2．論文標題 中学校英語科CAN-DOリストのモデル作成―長野県教育委員会と連携して―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 信州大学教育学部研究論集	6．最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石井康毅	4．巻 381
2．論文標題 日本人英語学習者が学習・使用する句動詞の分析―網羅的な頻度調査に基づく考察―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田祥平，荒瀬由紀，内田諭	4．巻 －
2．論文標題 英語教育支援のためのLexical Simplification: コロケーションスコアを用いたアプローチ	5．発行年 2017年
3．雑誌名 言語処理学会 第23回年次大会 発表論文集	6．最初と最後の頁 939-942
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 In’nami, Y., & Koizumi, R.	4．巻 33
2．論文標題 Task and rater effects in L2 speaking and writing: A synthesis of generalizability studies.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Language Testing	6．最初と最後の頁 341-366
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koizumi, R., In’nami, Y., Asano, K., & Agawa, T.	4．巻 6(5)
2．論文標題 Validity evidence of Criterion for assessing L2 writing proficiency in a Japanese university context.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Language Testing in Asia	6．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40468-016-0027-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小泉利恵	４．巻 65(10)
２．論文標題 ルーブリックを使ったスピーキングの評価	５．発行年 2016年
３．雑誌名 英語教育	６．最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Koizumi, R., Okabe, Y., & Kashimada, Y.	４．巻 28
２．論文標題 A multifaceted Rasch analysis of rater reliability of the Speaking Section of the GTEC CBT.	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Annual Review of English Language Education in Japan	６．最初と最後の頁 241-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 能登原祥之	４．巻 65
２．論文標題 学習者が使えている文法項目から熟達度レベルを感じとる	５．発行年 2016年
３．雑誌名 『英語教育６月号』（大修館書店）	６．最初と最後の頁 16-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 幡井理恵・長沼君主	４．巻 35
２．論文標題 小学校英語における到達目標フレームワークを活用したCan-Do評価の実践	５．発行年 2016年
３．雑誌名 JASTEC Journal	６．最初と最後の頁 143-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長沼君主	4．巻 22-23
2．論文標題 CLILにおける評価と観点別学習状況評価をめぐる英語教育改革の動向―統一的視点をもたらすCan-Do評価の可能性	5．発行年 2017年
3．雑誌名 国際教育研究所紀要	6．最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村越 亮治、江原 美明	4．巻 6
2．論文標題 高等学校英語科における協働的指導改善に関する課題	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神奈川県立国際言語文化アカデミア紀要	6．最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20686/academiakiyou.6.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計159件（うち招待講演　44件／うち国際学会　61件）

1．発表者名 Masashi Negishi, Yoji Kudo, Yasuko Okabe, Yuko Kashimada, Mika Hama, Yuko Umakoshi
2．発表標題 Linking the Global Test of English Communication (GTEC) to CEFR Levels.
3．学会等名 40th Language Testing Research Colloquium (LTRC 2018)（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 S.Uchida and M. Negishi
2．発表標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.
3．学会等名 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018)（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 Zhou Yujia, Jamie Dunlea, Masashi Negishi, Asako Yoshitomi
２．発表標題 Collecting a Priori Validity Evidence during the Development of a Computer-based Speaking Test for Japanese University Admission Purposes.
３．学会等名 第１回JAAL in JACET　学術交流集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸 雅史・岡部 康子・鹿島田 優子
２．発表標題 GTECスコアとCEFR関連付け調査～A1/PreA1レベル
３．学会等名 全国英語教育学会　京都研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史、酒井英樹
２．発表標題 「英語学習に関する継続調査」から考える指導のあり方
３．学会等名 上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム　コミュニケーション活動につながるプラクティスと教師の働きかけとは
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉田研作、田中茂範、根岸雅史、アレン玉井光江、金森強
２．発表標題 新教育課程にむけて～よりよい指導を考える～
３．学会等名 上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム　コミュニケーション活動につながるプラクティスと教師の働きかけとは
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 CEFR-Jのテスト・タスク開発概観
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 CEFR-based grading and sequencing of phrasal verbs and its implications for pedagogical lexicography
３．学会等名 ASIALEX（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 CEFR-J x 27: Developing corpus- and CEFR-based pedagogical resources and e-learning systems for 27 languages
３．学会等名 TALC 2018 Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 投野由紀夫
２．発表標題 CEFR-Jの「話すこと」「書くこと」を重視した高専生の専門分野英語（ESP）学習：その具体的方策
３．学会等名 全国高等専門学校英語教育学会（COCET）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono & Yasutake Ishii
２．発表標題 Investigating Japanese EFL learners' overuse/underuse of English grammar categories and their relevance to CEFR levels
３．学会等名 ASIA PACIFIC CORPUS LINGUISTICS CONFERENCE 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Developing multilingual language learning resources using the CEFR-J
３．学会等名 ASIA PACIFIC CORPUS LINGUISTICS CONFERENCE 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Searching for grammatical items as criterial features of CEFR levels in spoken and written learner corpora: Using the CEFR-J Grammar Profile
３．学会等名 英語コーパス学会 第 44 回大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 How to Use CEFR Resources for Materials and Task Develo[ment
３．学会等名 The 27th International Symposium and Book Fair on English Teaching (ETA)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Corpus Approaches to L2 Learner Profiling Research
３．学会等名 The 27th International Symposium and Book Fair on English Teaching (ETA)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 The Development of the CEFR-J and its Applications in Language Assessment
３．学会等名 Assessment of Second/Foreign Language Proficiency 2018 Fall International Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 L2 learner profiling research and its application for multilingual pedagogical resource development
３．学会等名 IALP (International Conference on Asian Language Processing)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 投野由紀夫、奥村学、荒瀬由紀、根岸雅史、篠崎隆宏、金子恵美子、 能登原祥之、石井康毅、内田諭、廣川左千男、ブレンダン・フラナガン、和泉絵美
２．発表標題 言語教育と言語処理の接点
３．学会等名 言語処理学会第25回年次大会(NLP2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 投野由紀夫，石井康毅
２．発表標題 中高生の自由英作文における文法項目のレベル別過剰・過少使用の傾向
３．学会等名 言語処理学会第25回年次大会(NLP2019)
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Introduction to the CEFR-J and its resources
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 曹 国林、高村 大也、奥村 学
２．発表標題 ニューラル機械翻訳モデルを用いたマルチソース文法誤り訂正
３．学会等名 人工知能学会全国大会（第32回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 酒井英樹
２．発表標題 教員養成における課題と展望：コア・カリキュラムを踏まえて」
３．学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC） 第 39 回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 酒井英樹・矢野司・米山聡・木下愛里
２．発表標題 "領域（技能）統合（読んだこと に基づいて話すこと）の指導と評価"
３．学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木下愛里・佐藤大樹・酒井英樹
２．発表標題 中学校における領域（技能）統合型の言語活動を通した話すこと［やり取り］の指導
３．学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 和田順一・木下愛里・酒井英樹
２．発表標題 小学校4年から6年までの児童の意識変容
３．学会等名 第１８回小学校英語教育学会（長崎大会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 和田順一・木下愛里・和田孝子・酒井英樹
２．発表標題 小学校4年生から6年生までの外国語活動による児童の変容 ―英語力に関する自己評価と聴解力に焦点をあてて―
３．学会等名 第48回中部地区英語教育学会・静岡大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 酒井英樹
２．発表標題 英語教育におけるエビデンス―「問い」の点から―
３．学会等名 第48回中部地区英語教育学会・静岡大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 酒井英樹・工藤洋路・島田英昭・小森真樹
２．発表標題 中学校における言語活動と英語力の自己評価や英語力との関係
３．学会等名 第48回中部地区英語教育学会・静岡大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koizumi, R., Kaneko, E., In’nami, Y., & Naganuma, N.
２．発表標題 Development and evaluation of spoken interaction tasks and a rating scale based on CEFR-J using multifaceted Rasch measurement: A pilot study
３．学会等名 Symposium conducted at the Pacific-Rim Objective Measurement Symposium (PROMS) 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 In'nami, Y.
２．発表標題 Validation research using multifaceted Rasch measurement in second language testing
３．学会等名 Symposium conducted at the Pacific-Rim Objective Measurement Symposium (PROMS) 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koizumi, R., In'nami, Y., Fukazawa, M.
２．発表標題 Holistic and analytic scales of a paired oral test for Japanese learners of English
３．学会等名 41st annual Language Testing Research Colloquium（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 英語スピーキング力の育成―入試を踏まえつつ、入試を超えた指導と評価を目指して―
３．学会等名 LET関東支部第140回（2018年度）研究大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 星野由子・廣森友人・小泉利恵・木澤利英子
２．発表標題 KATE Journalにおける査読プロセス：査読者と投稿者の立場から
３．学会等名 関東甲信越英語教育学会　第42回栃木研究大会．委員会企画（学会誌委員会）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Using CEFR-linked exams in the university entrance examination system in Japan.
３．学会等名 International Symposium on Language Testing 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 やり取り力の育成に向けた指導と評価―ルーブリックの効果的な使用に向けて
３．学会等名 第38回筑波英語教育学会 シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 金子恵美子・小泉利恵
２．発表標題 CEFR-J Spoken Interaction のタスク・テスト作成―Bレベルを中心に―
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小泉利恵・金子恵美子・Eric Setoguchi・印南洋・長沼君主
２．発表標題 話すこと（やりとり）テスト用タスク（A2.1まで）の信頼性―タスクをいくつ行えば安定したスコアが得られるか
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 CEFR-J Grammar Profileの活用（ワークショップ講師）
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasutake Ishii
２．発表標題 Investigating the Frequency and Dispersion of English Grammatical Items in Textbooks and Learner Corpora: For More Informed ELT Practice
３．学会等名 Grammar and Corpora 2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 CEFR(-J)準拠コーパス構築とCEFR-J Grammar Profileにおける文法項目使用例抽出手法
３．学会等名 英語コーパス学会2018年度春季研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 工藤洋路・内田諭
２．発表標題 英語学習者コーパス構築のためのタスク設計：特定の文法項目抽出に向けて
３．学会等名 英語コーパス学会 第44 回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuo Nakatani
２．発表標題 How to Write Research Papers for International Journals: Creating a Research Niche and Occupying the Niche
３．学会等名 The 57th JACET International Convention（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 アカデミックライティングにおけるヘッジの活用：研究論文における Discussion のコーパス分析"
３．学会等名 "英語コーパス学会 第 44 回大会"
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 ビジネス研究の効果的な 成果報告方法：国際学術 論文におけるイントロダク ション章のコーパス分析
３．学会等名 第25回国際ビジネス研究学会全国大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 英文ビジネスレターにおける効果的なライティングストラテジー：コーパス分析による検証
３．学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第78回全国大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 CEFR の到達目標に準じた 4 技能試験に対応するライティング指導法
３．学会等名 言語教育エキスポ 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuo Nakatani
２．発表標題 Toward a Leading Global University: Enhancing Academic Writing through CEFR-based Tasks
３．学会等名 2nd International Conference on Education and Technology（ICET 2018）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuo Nakatani
２．発表標題 Exploring Goals for Business Writing Strategy Training
３．学会等名 The 2018 Costa Rica Global Conference on Business and Finance（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男、工藤洋路、能登原祥之
２．発表標題 CEFR-J Writing のタスク・テスト作成
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 高田智子・和泉絵美
２．発表標題 Spoken Productionのテスト・タスク作成
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 内田　諭
２．発表標題 CEFR-J Text Profileの紹介と活用法
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 EHARA Yoshiaki, MURAKOSHI Ryoji, PARISE Peter
２．発表標題 Using CEFR-J for Assessing Teacher Workshops
３．学会等名 全国語学教育学会(JALT)
４．発表年 2018年

１．発表者名 村越亮治
２．発表標題 CEFR-Jに基づく高校生英語学習者の自己評価結果の分析
３．学会等名 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都
４．発表年 2019年

１．発表者名 Emi Izumi
２．発表標題 Errors and Beyond Errors and Beyond—A Corpus-based Stylistic Analysis of “Japanese English” Discourse
３．学会等名 The 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 和泉絵美
２．発表標題 World Englishes志向・複言語主義の英語教育の意義ー日本人英語の因果関係描写スタイルを通した考察
３．学会等名 言語処理学会第25回年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉田研作、青山彰、根岸雅史(パネリスト)
２．発表標題 グローバル化時代の英語運用能力の育成と大学入試（サブテーマ「英語の資格・検定試験の大学入試への活用」）
３．学会等名 全国大学入学者選抜研究連絡協議会　平成27年度研究大会（第10回）企画討論会①（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸 雅史
２．発表標題 Teaching to the test? the impact of four skills tests on English language teaching in Japan
３．学会等名 東京外国語大学国際ワークショップ「外国語教育の変革　国際連携・高大連携・ICT」　2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸 雅史（東京外国語大学）、 加藤　由美子（ベネッセ教育総合 研究所）、森下　みゆき（ベネッセ 教育総合研究所）、鹿島田　優子（ベネッセコーポレーション）
２．発表標題 スピーキング力を伸ばしている学校はどんな学校か？ー GTEC for STUDENTS 4技能 のスコア分析からー
３．学会等名 第43回全国英語教育学会島根研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡部康子、根岸雅史、投野由紀夫、工藤洋路、永田岳、高橋有加、川本渚凡、鹿島田優子、馬越優子、浜みか
２．発表標題 GTEC CBTスコアとCEFRレベル関連付け調査
３．学会等名 第43回全国英語教育学会島根研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋有加（東京外国語大学大学院生）・根岸 雅史（東京外国語大学大学院）
２．発表標題 日本人高校生スピーキングデータから見る発達傾向 ―語彙・文法・テキスト3観点から―
３．学会等名 関東甲信越英語教育学会第41回新潟研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸雅史（東京外国語大学大学院）・郭　淑佳 （東京外国語大学大学院生）・岡部康子（ベ ネッセコーポレーション）
２．発表標題 スピーキングテストの出来とコミュニケーションの意欲は関係する か―Willingness to Communicate による分析―
３．学会等名 関東甲信越英語教育学会第41回新潟研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 EUにおけるCEFR改訂の最新動向について言語教育
３．学会等名 言語教育(CERE)国際ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 英語４技能の指導と評価について
３．学会等名 神奈川県教育委員会　平成29年度教科等別教育課程説明会（外国語）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 今回の科研の目的とtask-test 作成の方法論と概要
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史・安田智恵（ブリティッシュ・カウンシル）
２．発表標題 東京外国語大学－ブリティッシュ・カウンシルによる入試用スピーキング・テスト開発－CEFR-J×27でつなぐアドミッション・カリキュラム・ディプロマー
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 投野　由紀夫
２．発表標題 これからの小学校英語教育に期待すること：CEFR と語彙習得の見地から
３．学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）　第 37 回秋季研究大会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naho Kawamoto, Yukio Tono and Jan Michelfelt
２．発表標題 Combining CEFR-based resources and GDEX in a good-example extraction task for basic users of English
３．学会等名 eLex 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yukio Tono & Naho Kawamoto
２．発表標題 Good dictionary examples revisited: The modeling of determining factors for illustrative examples in learner’s dictionaries
３．学会等名 AUSTRALEX 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Julia Miller & Yukio Tono
２．発表標題 Popularising corpus studies: Mr Corpus and Ms Parrot meet the audience
３．学会等名 AUSTRALEX 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 投野　由紀夫
２．発表標題 The CEFR-J Project の全体像
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 投野由紀夫・赤池雅光
２．発表標題 東京外国語大学CEFR-J準拠の27言語 e-learning システムの構築
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 M. Hayashi, R. Sasano, H.Takamura and M.Okumura
２．発表標題 Judging CEFR Levels of English Learner's Essays Based on Error-type Identification and Text Quality Measures
３．学会等名 the 18th International Conference on Intelligent Text Processing and Computational Linguistics (CICLing 2017)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 林正頼・奥村学
２．発表標題 CEFRレベル判定
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 高田智子
２．発表標題 CEFR-Jの中学校での活用
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 How to Write Research Papers for InternationalJournals: Writing Persuasive Introduction
３．学会等名 JACET 56th International Convention（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nakatani, Yasuo ; Mishina, Yukiko; Black, Grant
２．発表標題 How Can We Organize Academic WritingClassrooms for Global Education?
３．学会等名 JACET 56th International Convention（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 アカデミック・ライティング指導の考察：イントロダクションにおける研究価値の訴求
３．学会等名 第23回日英・英語教育学会研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 ゲリラ・マーケティングの再考‐ラオス・コカ・コーラの事例検証
３．学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第77回全国大会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 A Corpus Analysis of Business Leaders Presentation on the TED Talks: Implications for Developing Tasks based on CEFR
３．学会等名 ABC 82nd Annual International Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 Active Learning for University Students
３．学会等名 2018　7th　ICLMC（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男、工藤洋路、小泉利恵、能登原祥之
２．発表標題 Writing
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 能登原祥之
２．発表標題 CEFR-Jとスピーキング指導
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 日本人英語学習者の句動詞の学習・使用状況の分析―検定教科書の技能・領域別データと学習者コーパスの比較に基づく分析―
３．学会等名 統計数理研究所言語系共同研究 言語研究と統計2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 CEFR-J Grammar Profileの活用（ワークショップ講師）
３．学会等名 CEFR-J 2018 Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井康毅，投野由紀夫
２．発表標題 CEFR-J Grammar Profile
３．学会等名 CEFR-J 2018 Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 コーパス中の英文法項目の特定と頻度集計：CEFR-J Grammar Profileの取り組み
３．学会等名 日本ドイツ語情報処理学会2017年度研究発表会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 日本人英語学習者が使用する句動詞の分析―学習者の話し言葉コーパスと中高の検定教科書に基づく考察―
３．学会等名 第3回アジア圏学習者コーパス国際シンポジウム
４．発表年 2017年

１．発表者名 内田　諭
２．発表標題 Text Profile
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 内田　諭
２．発表標題 Text Profileの活用
３．学会等名 CEFR-J　2018　Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤 拓、篠崎 隆宏
２．発表標題 英語学習者の発声自動評価を目的としたDNN音声認識システムの検討
３．学会等名 情報処理学会第119回音声言語処理研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 篠崎 隆宏、加藤 拓
２．発表標題 日本人英語学習者を対象とした自動英語音声認識の予備検討
３．学会等名 CEFR-J 2018 Symposium
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koizumi, R., In'nami, Y., & Fukazawa, M
２．発表標題 Examining the construct of paired oral tasks through analysis of elicited speech functions.
３．学会等名 4th International Conference of the Asian Association for Language Assessment (AALA)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Narita, M., & Koizumi, R.
２．発表標題 Rater variability in assessing Japanese EFL essays.
３．学会等名 Symposium on Second Language Writing（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 ダイアローグ型タスクによるスピーキング能力評価研究の動向―学習者対話型テストを中心に―
３．学会等名 第3回アジア圏学習者コーパス国際シンポジウム（Learner Corpus Studies in Asia and the World（LCSAW）2017）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 対話能力向上に向けて評価基準を学生と共有し、多面的な評価を行う取り組み
３．学会等名 公益社団法人 私立大学情報教育協会 英語教育･法律学･政治学･国際関係学･コミュニケーション関係学グループ 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 『実例でわかる英語テスト作成ガイド』の作成背景と要点
３．学会等名 関東甲信越英語教育学会（KATE）研究推進委員会 座談会＆ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 英語テストの作り方と検証方法
３．学会等名 神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部学術講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 スピーキング評価と学習者対話テストの研究動向
３．学会等名 独立行政法人 国際交流基金日本語国際センター 教材開発チーム スタッフ・セミナー（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小泉 利恵・金子恵美子・印南洋・長沼 君主
２．発表標題 Spoken Interaction: 話すこと（やりとり） テスト用タスクの予備調査報告
３．学会等名 CEFR-J 2018シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 和泉絵美・高田智子・小泉利恵・酒井英樹
２．発表標題 Spoken Production
３．学会等名 CEFR-J 2018シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 中谷安男・工藤洋路・小泉利恵・能登原祥之・酒井英樹
２．発表標題 CEFR-Jライティングタスクの評価
３．学会等名 CEFR-J 2018シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Evaluation of Telephone Standard Speaking Test using an argument-based validation framework
３．学会等名 Language Assessment Research Conference 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Koizumi, R., Agawa, T., & Asano, K.
２．発表標題 Deriving useful information on skill imbalance from TOEFL iBT? scores
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics 2018 Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 In’nami, Y., Hijikata-Someya, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 L2 working memory capacity and L2 reading comprehension: A meta-analysis
３．学会等名 Paper presented at the 1st Japan Second Language Acquisition Research Forum (J-SLARF) meeting, Tokyo, Japan（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koizumi, R., & In’nami, Y.
２．発表標題 Vocabulary size and depth, and listening and reading skills
３．学会等名 Paper presented at the 21st JLTA Annual Conference, Fukushima, Japan
４．発表年 2017年

１．発表者名 小泉利恵 & 印南洋
２．発表標題 日本人英語学習者の4技能レベルのずれの特徴―TOEFL Junior Comprehensiveの場合―
３．学会等名 第43回全国英語教育学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 L2 speaking proficiency and its features: A meta-analysis
３．学会等名 Paper presented at a colloquium at the 11th International Symposium on Bilingualism 2017 Conference, Limerick, Ireland（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 印南洋、酒井英樹、長沼君主、和泉絵美
２．発表標題 Listening
３．学会等名 CEFR-J 2018シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 「新学習指導要領」で求められる英語教育へのアプローチ
３．学会等名 平成28・29年度 川崎市教育委員会 研究推進校 外国語（英語）科 研究報告会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 小学校における外国語（英語）科の指導の在り方
３．学会等名 平成29年度第１回下田市英語力向上プロジェクト講演会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路・日臺滋之・松本博文
２．発表標題 英語教員養成課程で学ぶ学生の能力や意識の変化についての調査
３．学会等名 JACET 56th International Convention（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路・浜みか・岡部康子
２．発表標題 大学入試の4技能化が高校の英語指導にもたらす波及効果
３．学会等名 全国英語教育学会第43回島根研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 小学校英語科及び外国語活動の指導の在り方
３．学会等名 夏季特別講座「北海道弟子屈町英語科授業実践研修」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 これからの英語教育～「新学習指導要領」における小学校の外国語科を中心として～
３．学会等名 市川市夏季英語研修（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 ４技能を向上し学習意欲を高める言語活動の指導と評価
３．学会等名 福島県教育センター：生徒の学習意欲を高める英語科の言語活動における指導と評価実践講座（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yoji Kudo, Mika Hama, Yasuko Okabe
２．発表標題 Change in college entrance exams and washback effects on teachers
３．学会等名 The 15th AsiaTEFL - 64th TEFLIN International（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤洋路
２．発表標題 これからの小学校外国語教育
３．学会等名 川崎市小学校国際教育研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ehara, Yoshiaki and Murakoshi, Ryoji
２．発表標題 A Reflective Teaching Portfolio for Teachers
３．学会等名 JALT2017 International Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 和泉絵美
２．発表標題 学習者言語の正確性と拡張性：CAN-DOベースの言語教育におけるそれぞれの役割
３．学会等名 早稲田大学CCDL研究所第2回シンポジウム Symposium on Automated Scoring (SONAS) 2017, 「英語学習者のパフォーマンスを捉える」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 和泉絵美
２．発表標題 ワークショップ：CEFR-Jの大学での活用
３．学会等名 The CEFR-J 2018 Symposium
４．発表年 2018年

１．発表者名 根岸雅史、加藤由美子、森下みゆき、岡部康子
２．発表標題 英語力を伸ばしているのはどんな学校か－GTEC for STUDENTS スコアの分析から－
３．学会等名 全国英語教育学会第42回埼玉研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 根岸雅史
２．発表標題 CAN-DOリストを利用した教室内パフォーマンス評価
３．学会等名 神田外語大学英語教育公開シンポジウム「中学・高校における英語パフォーマンス評価の方法と課題」（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Toward the integration of a wordlist with a common framework of English: The case of the CEFR-J
３．学会等名 Vocab@Tokyo 2016（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 Corpus Linguistics and English Language Teaching: Past, Present and Future
３．学会等名 the 2016 PAC/25th International Symposium on English Teaching and Book Fair（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 How to Exploit the CEFR-related Corpus Resources for ELT
３．学会等名 the 2016 PAC/25th International Symposium on English Teaching and Book Fair（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yukio Tono
２．発表標題 The CEFR-J and its Impact on English Language Teaching in Japan
３．学会等名 大学英語教育学会第55回国際大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 投野由紀夫、三島宏、松本優美
２．発表標題 NHK英語基礎英語CAN-DOリスト開発とNHK英語データベース&LEADへの実装
３．学会等名 全国英語教育学会第42回埼玉研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 林 正頼，笹野 遼平，高村大也，奥村学
２．発表標題 誤りの傾向と文の容認性に着目した英作文のレベル判定
３．学会等名 第227回自然言語処理研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 金子恵美子
２．発表標題 Interim report on the development of parallel pictures for lower level EFL learners
３．学会等名 Issues and Technology in Developing and Using Pictures as an Instrument to Teach, Assess, and Research Language Skills（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI, C.Grant & Y. Mishina
２．発表標題 Implication for Teacing and Learning Academic Writing across Various Disciplines; How to Combine Issues of Theory and Practice
３．学会等名 JACET55th International Convention（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 Exploring Buisiness Communication Strategies Based on CEFR
３．学会等名 2016 IEDRC Finland Conferences（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 Global Education with Business-Academia Collaboration
３．学会等名 The International Academic Forum 2016（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 ビジネスパーソンの英語プレゼンテーションにおけるコミュニケーション・ストラテジーの検証
３．学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第76回全国大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 アカデミック・ライティングをいかに始めるかーイントロダクションの研究にっちの考察
３．学会等名 日英英語教育学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中谷安男
２．発表標題 学術論文のイントロダクションにおけるブースターの検証
３．学会等名 英語コーパス学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 Communication Strategies of Business Leaders: Corpus Analysis of Public Speaking
３．学会等名 3rd International Conference on Business and Management（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuo NAKATANI
２．発表標題 Enhancing Learners' Production Ability: Presentation and Academic Writing for Globalizing Process of University Education
３．学会等名 2017 IEDRC Kyoto Konferences（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 石井康毅
２．発表標題 日本人英語学習者が学習・使用する句動詞の抽出と分析
３．学会等名 統計数理研究所言語系共同研究 言語研究と統計2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasutake Ishii
２．発表標題 The Development of the CEFR-J Grammar Profile
３．学会等名 大学英語教育学会第55回国際大会 シンポジウム “The Development of the Grammar/Text/Error Profiles for the CEFR-J”（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 高田祥平，荒瀬由紀，内田諭
２．発表標題 英語教育支援のためのLexical Simplification: コロケーションスコアを用いたアプローチ
３．学会等名 言語処理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 L2 speaking proficiency and its correlates: A meta-analysis of correlation coefficients.
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics 2016.（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Koizumi, R.
２．発表標題 Multi-faceted Rasch analysis in rating tasks in Japan’s university entrance examinations.
３．学会等名 Pacific Rim Objective Measurement Symposium (PROMS) 2016（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 印南洋・小泉利恵・仲村圭太
２．発表標題 日本人英語学習者の4技能レベルのずれの特徴―TEAPとTOEFL iBTの場合―
３．学会等名 全国英語教育学会 第42回 埼玉研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小泉利恵・岡部康子・鹿島田優子
２．発表標題 GTEC CBTスピーキングにおける評価者信頼性の検討―多相ラッシュ分析を用いて
３．学会等名 全国英語教育学会 第42回 埼玉研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 スピーキング評価のルーブリックと妥当性
３．学会等名 神田外語大学英語教育公開シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Koizumi, R., In’nami, Y., & Fukazawa, M.
２．発表標題 Effects of four-month paired-oral-type instruction and assessment on the development of L2 speaking ability of Japanese university learners of English.
３．学会等名 Symposium conducted at the Pacific Second Language Research Forum 2016 (PacSLRF2016)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 Awarding EFL credits using EIKEN, TOEFL, and TOEIC in Japanese universities.
３．学会等名 20th Annual Conference of the Japan Language Testing Association (JLTA)
４．発表年 2016年

１．発表者名 成田真澄・小泉利恵
２．発表標題 多相ラッシュモデルを用いた英語ライティングの分析的評価の妥当性の検討
３．学会等名 第20回（2016年度）日本言語テスト学会全国研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Jeon, E. H., In’nami, Y., & Koizumi, R.
２．発表標題 35th Second Language Research Forum (SLRF 2016)
３．学会等名 35th Second Language Research Forum (SLRF 2016)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 4技能テストの入試導入とプラスの波及効果―国内外の波及効果研究を参考に―
３．学会等名 JATLaC 言語文化教育学会第16回大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小泉利恵
２．発表標題 Facetsを使った多相ラッシュ分析―パフォーマンステストの妥当性検証に向けて
３．学会等名 言語教育とデータ分析に関する連続ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 In’nami, Y., Jeon, E. H., & Koizumi, R.
２．発表標題 L2 speaking proficiency and its features: A meta-analysis.
３．学会等名 American Association for Applied Linguistics 2017.（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 印南洋
２．発表標題 英語教育研究におけるメタ分析
３．学会等名 日英・英語教育学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yoshiyuki NOTOHARA
２．発表標題 "The Error Profile for the CEFR-J" In Y.Tono, Y.Ishii, S. Uhchida, Y. Notohara, M. Aikawa, The Development of the Grammar/Text/Error Profiles for the CEFR-J
３．学会等名 The JACET 55th International Convention Symposium（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小澤奈摘、田中智大、篠崎隆宏
２．発表標題 ChimeChallengeタスクにおけるNMFによる雑音除去の検討
３．学会等名 音声言語情報処理研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 長沼君主
２．発表標題 CEFRに基づいた思考の高度化を促すCLIL型EAP教科書の開発と展望
３．学会等名 第55回大学英語教育学会国際研究大会（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoyuki Naganuma
２．発表標題 Building and utilizing a learner corpus with the CEFR
３．学会等名 The 14th Asia TEFL International Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ehara, Y., Murakoshi, R., Parise, P.
２．発表標題 Overcoming Hindrances to Teacher Transformation
３．学会等名 全国語学教育学会（JALT）
４．発表年 2016年

１．発表者名 和泉　絵美
２．発表標題 学習者コーパスのアノテーション：誤りとその向こう側
３．学会等名 英語コーパス学会第42回大会 シンポジウム『コーパスアノテーションの功績と課題』
４．発表年 2016年

〔図書〕　計27件

１．著者名 酒井英樹、根岸雅史・他	４．発行年 2019年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 128
３．書名 CROWN Jr. 5	

１．著者名 酒井英樹、根岸雅史・他	４．発行年 2019年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 128
３．書名 CROWN Jr. 6	

１．著者名 Yukio Tono	４．発行年 2018年
２．出版社 Crane Publishing Co. Ltd.	５．総ページ数 392-409
３．書名 Corpus approaches to L2 learner profiling research. In Leung, Y-N., Katchen, J., Hwang S., & Chen, Y. (eds.) Reconceptualizing English Language Teaching and Learning in the 21st Century: A Special Monograph in Memory of Professor Kai-Chong Cheung	

１．著者名 天笠茂監修　新教育課程実践研究会編 榎本智司・石鍋浩・酒井英樹外23名	４．発行年 2018年
２．出版社 教育開発研究所	５．総ページ数 114
３．書名 中学校全面実施につながる移行措置実践ガイド	

１．著者名 酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著	４．発行年 2018年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 319
３．書名 「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法	

１．著者名 上田外史彦・内田綾・大田亜紀・金城太一・黒木愛・酒井英樹外11名	４．発行年 2018年
２．出版社 東洋館出版社	５．総ページ数 159
３．書名 実践！新学習指導要領　基本が分かる　外国語活動・外国語科の授業	

１．著者名 市川泰男，高橋和久，石井康毅，他8名（編著）	４．発行年 2019年
２．出版社 文英堂	５．総ページ数 160
３．書名 UNICORN English Communication 3 NEW EDITION	

1．著者名 Barkaoui, K., & In’nami, Y.	4．発行年 2019年
2．出版社 New York: Routledge.	5．総ページ数 248
3．書名 Using multilevel modeling to examine changes in second language test scores over time. In In V. Aryadoust & M. Raquel (Eds.), Quantitative data analysis for language assessment volume II: Advanced methods	

1．著者名 In’nami, Y., & Barkaoui, K.	4．発行年 2019年
2．出版社 New York: Routledge.	5．総ページ数 248
3．書名 Examining sources of variability in second language test scores with multilevel modeling. In In V. Aryadoust & M. Raquel (Eds.), Quantitative data analysis for language assessment volume II: Advanced methods	

1．著者名 小泉利恵	4．発行年 2018年
2．出版社 アルク	5．総ページ数 263
3．書名 英語4技能テストの選び方と使い方―妥当性の観点から―	

1．著者名 小泉利恵	4．発行年 2018年
2．出版社 東京図書	5．総ページ数 301
3．書名 「一般化可能性理論」 平井明代（編著）．『教育・心理・言語系研究のためのデータ分析―研究の幅を広げる統計手法』(pp. 65-93)．	

１．著者名 根岸雅史	４．発行年 2017年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 180
３．書名 テストが導く英語教育改革－「無責任なテスト」への処方箋	

１．著者名 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一編著	４．発行年 2017年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 207
３．書名 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ―小学校外国語科内容論―	

１．著者名 大城賢・酒井英樹・佐藤美智子・田縁眞弓・中村典生	４．発行年 2017年
２．出版社 東洋館出版社	５．総ページ数 156
３．書名 平成29年版　小学校　新学習指導要領ポイント総整理　外国語	

１．著者名 吉田研作・大城賢・山田誠志・酒井英樹・狩野晶子外11名	４．発行年 2017年
２．出版社 明治図書出版会社	５．総ページ数 158
３．書名 平成29年版　小学校新学習指導要領の展開　外国語編	

１．著者名 松浦伸和・金子朝子・加納幹雄・酒井英樹外11名	４．発行年 2017年
２．出版社 明治図書出版会社	５．総ページ数 205
３．書名 平成29年版　中学校新学習指導要領の展開　外国語編	

１．著者名 天笠茂監修　新教育課程実践研究会編 榎本智司・石鍋浩・酒井英樹外23名	４．発行年 2018年
２．出版社 教育開発研究所	５．総ページ数 114
３．書名 中学校全面実施につながる移行措置実践ガイド	

１．著者名 能登原祥之（分担執筆）	４．発行年 2018年
２．出版社 英宝社	５．総ページ数 246
３．書名 赤松信彦(編著)『英語指導法の理論と実践ー21世紀型英語教育の探求ー』	

１．著者名 市川泰男，高橋和久，石井康毅，棚橋昌代，桃尾美佳，John R. Hestand，株式会社文英堂編集部	４．発行年 2018年
２．出版社 文英堂	５．総ページ数 207
３．書名 UNICORN English Communication 2 NEW EDITION	

１．著者名 小泉利恵・印南洋・深澤真（編）	４．発行年 2017年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 161
３．書名 実例でわかる英語テスト作成ガイド	

１．著者名 中谷安男	４．発行年 2016年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 224
３．書名 大学生のためのアカデミック英文ライティング：検定試験対策から英文論文執筆まで	

１．著者名 市川泰男，高橋和久，石井康毅，棚橋昌代，桃尾美佳，John R. Hestand，株式会社文英堂編集部	４．発行年 2017年
２．出版社 文英堂	５．総ページ数 184
３．書名 UNICORN English Communication 1 NEW EDITION	

１．著者名 浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・髙木亜希子・酒井英樹	４．発行年 2016年
２．出版社 研究社	５．総ページ数 218
３．書名 はじめての英語教育研究―押さえておきたいコツとポイント―	

１．著者名 元兼正浩・酒井英樹他45名	４．発行年 2016年
２．出版社 教育開発研究所	５．総ページ数 268
３．書名 教育の最新事情がよくわかる本３	

１．著者名 根岸雅史、酒井英樹、工藤洋路他	４．発行年 2016年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 159
３．書名 New Crown English Series 1	

１．著者名 根岸雅史、酒井英樹、工藤洋路他	４．発行年 2016年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 159
３．書名 New Crown English Series 2	

１．著者名 根岸雅史、酒井英樹、工藤洋路他	４．発行年 2016年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 159
３．書名 New Crown English Series 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	投野　由紀夫 (Tono Yukio) (10211393)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	高田　智子 (Takada Tomoko) (20517594)	明海大学・外国語学部・教授 (32404)	
研究分担者	奥村　学 (Okumura Manabu) (60214079)	東京工業大学・科学技術創成研究院・教授 (12608)	
研究分担者	酒井　英樹 (Sakai Hideki) (00334699)	信州大学・学術研究院教育学系・教授 (13601)	
研究分担者	内田　諭 (Uchida Satoru) (20589254)	九州大学・言語文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	中谷　安男 (Nakatani Yasuo) (90290626)	法政大学・経済学部・教授 (32675)	
研究分担者	金子　恵美子 (Kaneko Emiko) (30533624)	会津大学・コンピュータ理工学部・教授 (21602)	
研究分担者	能登原　祥之 (Notohara Yoshiyuki) (70300613)	同志社大学・文学部・教授 (34310)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	石井　康毅 (Ishii Yasutake) (70530103)	成城大学・社会イノベーション学部・教授 (32630)	
研究分担者	工藤　洋路 (Kudo Yoji) (60509173)	玉川大学・文学部・准教授 (32639)	
研究分担者	長沼　君主 (Naganuma Kiminobu) (20365836)	東海大学・国際教育センター・教授 (32644)	
研究分担者	印南　洋 (In'nami Yo) (80508747)	中央大学・理工学部・教授 (32641)	
研究分担者	篠崎　隆宏 (Shinozaki Takahiro) (80447903)	東京工業大学・工学院・准教授 (12608)	
研究分担者	小泉　利恵 (Koizumi Rie) (70433571)	順天堂大学・医学部・准教授 (32620)	
研究分担者	村越　亮治 (Murakoshi Ryoji) (30567110)	神奈川県立国際言語文化アカデミア・講座・研究課・講師 (82725)	
研究分担者	和泉　絵美 (Izumi Emi) (80450691)	京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師 (34302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会	開催年
CEFR-J 2018 Symposium	2018年～2018年
国際研究集会 CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関